

令和2年度 高梁市医療計画検討委員会議事概要

日 時：令和2年8月31日（月）19：00～20：45

場 所：高梁市立図書館 多目的室

出席者：委員12名、アドバイザー1名、市長、事務局5名

近藤市長あいさつ

- ・日頃から市の医療行政の推進にご尽力いただき感謝申しあげる。
- ・高梁市医療計画を策定し2年が経過した。関係者でしっかり議論いただき、医療計画に基づく政策が着実に進んでいると実感している。
- ・医療計画の基本理念は、「地域医療は、まちづくり」。新たに策定する総合計画の柱の一つに定住・移住を掲げている。定住・移住の重要な要素は医療、食、教育の3つ。医療・介護は健康づくりにも繋がる大事なものと理解している。定住・移住の大きなテーマの一つである医療に関して、皆様方から色々なご意見をいただき、医療計画の最終目標である高梁地域の医療のあり方を検討していきたい。
- ・先日、岡山大学病院と高梁地域で連携協定を締結した。市民の皆様は地域の医療の現状をお届けする一つだと感じている。見える化を図りながら今後の医療政策を進めていきたい。

1 開 会

河村会長あいさつ

- ・新型コロナの患者が本学から発生しご迷惑をおかけした。本学には感染症の先生がおり、学生の席は完全指定席とし、職員が早急に対応したので感染拡大防止に努める事ができた。こうした経験からもこのような医療機関の連携の場は非常に重要だと考えている。
- ・市民が安心して生活できるよう貢献していきたい。

2 報 告

(1) 令和元年度の成果について

—資料1、資料集P1～26により事務局から説明—

仲田副会長：看護師等の労働環境改善に関するアンケート結果について看護師の高齢化はやはり大きな問題。今後は、この結果をどう活かしていくかが重要な問題。高梁かごねつとで各病院の看護師長を中心にこのアンケート結果をもとに議論を進めたい。各病院長からの了解をいただきたいがどうか。 —了解—

河村会長：約1割の看護師が労働環境を理由に退職を検討している状況。本会の喫緊の課題は看護師確保。今いる看護師が辞めてしまっても意味がない。重要な問題だと思う。アンケートの結果を持ち帰り、院内で病院ごとに院長、事務長、看護師長等を含め議論していただきたい。可能であれば次の会で検討した内容を発表いただけたらと思う。

仲田副会長：病院看護師の4人に1人は市外に住んでいる。これを改善していきたい。

浜田アドバイザー：吉備国際大学など地元の若い学生は市内に就職されているのか。

事務局：医療計画策定時の結果では、平成26年から3か年で吉備国際大学から0名、順正高等看護福祉専門学校からは6名が市内で就職されている。市内で研修機会を増やすなど行っているが毎年若干名というのが現状。

藤井委員：吉備国際大学は市外からの学生が多い。市の奨学金を受けている方で返還免除になると地元へ帰ろうかといった職員もいる。食い止めるのは各病院の努力だと思うが、地元の学生が地元の看護大学へ入学してもらえるようにしていくのが重要だと看護協会では話している。

河村会長：アンケート結果は、院内へ持ち帰り、議論いただけたらと思う。

(2) 看護師確保について

－資料集P27～31により事務局から説明－

仲田副会長：事務局案で、市看護師等奨学金制度の見直しに関して医師会で負担する費用は生じるのか。

事務局：基本的には市と就職先の医療機関との折半と考えているが、当面の運営費用が必要といったことであれば何らかの手立ては必要と考えている。

河村会長：学生からみると市と医療機関から別々で出すより、一つのまとまった金額になるのは魅力的。

原田委員：当院は看護助手や准看護師向けに奨学金を出している。月額5万円、無利子、貸付期間勤務されれば返還免除。当院は精神科という特殊性が求められるので、市内の他の病院で経験を積まれ、当院へ就職いただいた方も対象に出来たらと考えている。新規の学生への貸付け実績はこれまでない。PR不足の面があったのかもしれないが、新たな制度で周知できれば当院はありがたい。

仲田副会長：貸付金額に幅を持たせることは良い事だと思う。この場ではデリケートな面もあるので中々議論しにくい部分もある。関係者を集めた小会議で決定してはどうか。地元の学生が地元の大学へ行き、地元の医療機関に就職されるのは関係者の多くが望んでいる。市内の学生に大学のPRをしていくことも大事だと思う。来年度の入学に合わせるには早い時期に決定すべき。4病院、市、医師会等で議論し、早く実行に移してはどうか。

戸田委員：市の月額4万4千円の奨学金が8～10万円になるという認識で良いか。

事務局：市と医療機関の負担分を合わせた合計額が8～10万円になると想定している。

戸田委員：当院は額を減らすことは考えていない。市がもう少し負担を増やしてもらえればと思う。

藤澤委員：今日は、色々な意見をいただいた。本人の意向と医師会の調整でミスマッチが起きないようにしないといけない。制度設計自体が新卒の学生を対象としており、一度市外に就職され、その後市内の医療機関に就職した場合など変化に対応できるものとなっていない。何らかの形で専門部会などを設け、詳細のすり合わせを行わないと実態にあった制度にならないと思う。その中で市の負担部分を上げられないかなどの意見も出てくると思う。もう少し突っ込んだ内容で議論いただければそれをもとに制度設計を進めたい。

仲田副会長：大杉病院の菅田理事長には事前に話を聞いており、制度設計のための会議に大杉病院からも参加される意向を確認している。

河村会長：今後、小会議（4病院、医師会、大学、市等）を開催するので参加をよろしく頼む。

（3）新型コロナウイルス感染症対策について

－資料集P32～41により事務局から説明－

仲田副会長：診療所ではフェイスシールドなど持っていなかったが、市の支援はありがたかった。

藤村委員：重症者の入院については市町村レベルの対応というより広域で感染症指定病院への入院になる。県では250床の病床を確保し対応している。市では外来での予防、福祉施設等のクラスター化への配慮をお願いしたい。

3 協 議

（1）令和2年度の事業について

－資料1、資料集P42～49により事務局から説明－

戸田委員：高梁市感染症対応病床等準備事業補助金の対象範囲は。

事務局：既に病床確保されている病院とこれから新たに新型コロナウイルス感染症患者等の受入れ準備として行う病床等の設備の整備が対象となる。

藤村委員：外来医療での遠隔診療の導入は効果的だと考えるがどうか。

事務局：市全体として今後どうしていくか考えるのも一つだが、各医療機関が今後どういった取組みをされるのかにも左右される。国県でも補助制度が準備されているので、各医療機関からの声を聞きながら今後の対応を考えていきたい。

仲田副会長：一番のネックは初診からどうやって支払いの負担分をいただくか。カード支払いにすると手数料が発生する。

戸田委員：オンライン可能な医療機関は全国で1万件程度。未収がかなりあり、カード支払いの導入も検討している。処方箋を送ることはできても薬をどうやって渡すかの問題もある。

河村会長：また有益な情報があれば共有していきたい。

（2）市外中核病院との連携について

－資料集P50～51により事務局から説明－

仲田副会長：これまでの高梁地域と岡山大学病院との関係があって今回の締結に至った。戸田先生のご尽力は大きい。

（今後は、倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院と連携協定の締結を視野に進めていく。）

(3) 令和2年度高梁市医療・介護市民公開講座について

原田委員：市民公開講座の昨年度の感想でインフルエンザやコロナウイルスの影響を考慮し、他の時期にずらしてはという声がある。今までどおりの開催は難しいので、WEB等での開催など新たな形での開催を検討していく必要がある。

河村会長：開催時期や開催方法について今後、主催の高梁市在宅医療・介護連携推進協議会、市、たいよの丘ホスピタルで協議を進める。

4 その他

事務局：市内医療機関連携ポスターを作成した。今後は、市内の医療機関、介護施設、薬局等へ掲示し、市民の皆さんへの普及啓発に努めていきたいと考えているのでご協力をよろしく頼む。

浜田アドバイザー

- ・平成30年に高梁市医療計画を策定し2年が経過した。検討項目が100あり、100の検討とアクションと題し対策を講じている。PDCAサイクルでしっかり管理され、オープンな場でしっかり議論されている。市民の方々にもわかりやすい資料で情報提供されている点で敬意を表したい。
- ・岡大病院と連携協定を締結され、岡大病院長は、高梁市の医療人材を育てたいと考えている。高梁市では、地域枠の学生をしっかり育てていただいている。ひとづくりは非常に大事だと思う。我々も微力ながらしっかり頑張っていきたい。

5 閉会（仲田副会長）

- ・高梁市医療計画を策定し2年が経過した。一定レベルの医療は提供し続けようと頑張っている。この頑張りを支えていただくには、市民の数と力が必要不可欠。人口減少に歯止めをかけられるよう、皆で一緒になって検討を進めていきたいと考えている。
本日はありがとうございました。